



秋竹小 学校だより

第145号 平成26年12月22日

初雪や雪止みそこに雪の精

雪遊びを楽しむ秋竹っ子

18日(木)は、夜半から雪が降り始め、朝には一面の銀世界でした。学校では、出勤した職員が雪かきに大忙し。西門近くにお住まいの地域の方も手伝ってくださり、何とか登校時刻には、子どもたちが通れる道ができました。

さて、運動場に降り積もった雪を見た子どもたちは大喜び。雪遊びをしないわけにはいきません。朝の会が終わり、メルポケスペシャルを大いに楽しんだ後、全学級が運動場で雪遊びをしました。大きな雪だるまを作る子、校長先生や担任の先生、クラスの友達と雪合戦を楽しむ子、…途中、雪が降り出す場面もありましたが、寒さなんてへっちゃら。大人も子どもも全力で(?)雪遊びを楽しみました。

このところ、毎年一度は運動場で雪遊びができるほどの積雪があります。どの学校でも、子どもたちは雪遊びを楽しんでいることでしょう。しかし、秋竹のように全校の子どもたちが一度に運津場で楽しむことができる学校は、それほどたくさんはありません。これも小規模校ならではの光景です。



全校でメルポケ・スペシャル

ここ数年、低学年・高学年に分かれて行われていたメルポケスペシャルですが、今年は体育館で全校が集まって読み聞かせを楽しみました。釣り竿をもったサル(山チーム)とその糸にかかったタコ(海チーム)との引っ張り合い。今回は参加型の読み聞かせということで、代表の子どもたち数名が、サルとタコの助っ人としてお面を付けて参加しました。さらに、全校の子どもたちが二つ(山チームと海チーム)に分かれ、かけ声で応援するという大がかりなものでした。「せーの」というお母さんの声に合わせて、子どもたちも声を出します。じっくりと耳を傾ける読み聞かせもよいのですが、このように、自分も声を出して参加する読み聞かせも、子どもたちにとってはたいへん楽しいものでした。

厳しい寒さの中、何度も集まって準備をしていただいたメルポケのみなさん、本当にありがとうございました。



言葉遣いは心遣い

何気なく言った言葉が独り歩きして、思ってもみない結果をもたらしてしまうことがあります。自分の言うことに責任をもち相手に分かってもらうこと、そのためには心遣いとコツが必要だそうです。

まず、聞き上手であることです。学校では子どもたちに、「目と耳と心で聞きなさい」と言います。耳だけで聞くのではなく、目で、笑顔で、心で聞くようにします。また、相手に喜びがあれば一緒に喜び、残念なことがあったときは一緒に悲しむ姿勢も大切です。相手の言うことをしっかり聞く(受け止める)ことで、人間関係の基礎を築くことができます。次に、話上手のポイント、はっきり明るく話す習慣をつけることです。相手の目を見て、ほほ笑んで話すことも大切です。

心遣いを言葉と動作で表すことはマナーであり、コミュニケーションの基本です。明日からの冬休み、家族団らんのひとときに、子どもたちにも理解できるような言葉で話してみたいはいかがでしょうか。